

### 建設統計調査国土交通大臣表彰

## 久保組 旭鉄工 顕著な功績称える

2020年度建設統計調査国土交通大臣表彰伝達式が2日、鹿児島市の県鹿児島地域振興局であった。久保組(久保俊専社長)と旭鉄工(丸元正樹社長)に感謝状を授与した。

建設工事施工統計調査および建設工事受注動態統計調査は、国土交通省が毎年実施。全国の景気指標や地域の経済活動を表す重要な経済指標として広く活用されている。表彰は、同調査に対し3年以上正確・迅速な報告を行い、建設行政に貢献した企業をたたえるもの。



令和2年12月2日

20年度は県内251社の協力企業の中から、旭鉄工の小門剛副社長は「2社が受賞した。式では、福元一也建設部長が「調査結果は重要な指標となる。今後も皆さんの模範となるよう一層のご協力をいただきたい」と話し、感謝状を授与。これを授け、久保組の久保俊専専務は「受賞

は大変名誉。迅速な調査に尽力していきたい」、旭鉄工の小門剛副社長は「ありがとうございます」と謝意を述べた。

## 役割と向き合おう

### 産廃処理実務者研修 産資源協

県産資源循環協会(永田雄一会長)は2日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで「産廃処理実務者研修会」を開催した。適正な業務遂行を見据え、知識を習得・再確認する場。約50人が受講し、改めてその役割と向き合った。



適正な業務遂行へ知識を習得・再確認した研修会＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテル

「産廃処理実務者研修会」の長谷部政行氏が講師を務めた研修会。冒頭には、「関連法などが複雑化して『中身がよくわからない』などの意見を聞く」と業界の声を触れ、「産廃・一般の両廃棄物が一つの法律で定められている点などに要因がある」として各項目の概要を丁寧に説明した。基礎にあたっては、法

令概要や廃棄物の区分・種類・発生状況、循環型社会の仕組み等を中心に紹介。処理責任にも言及し、「保管など各基準の順守に努めてほしい。廃棄物の減量に努め、適切な処理が困難なものを排出してはいけない」と責務を促した。

このほか、連合会の岩田隆氏も登壇し、具体的な実務内容を解説。委託処理と事例を交えたその契約書の作成法、

「聴くプロ」プレゼン大会 業界から2社発表

Grand Bless (グランブレス)の有川純一社長はこのほど、鹿児島市のシーサイド平川MASARUでビジネス版「聴くプロ」&心理カウンセラープレゼン大会を開いた。写真。マルカワ建設(川畑健義社長)やトラス・アーキテクト(木元達也社長)の社員らが発表。社内や社外でコミュニケーションが活性化し事例などを述べた。

開いていきたい」と語り、特長は、仕口のストレスを解消し、構造材・羽柄材・構造用面材・サッシまでを一体化させたパネル。また、工場と運搬現場のサプライチェーンを構築し、1日で上棟一次防水まで行う。

## 外国人雇用管理セミナー

### 体制構築に備え

鹿児島労働局、県

鹿児島労働局と県は2日、鹿児島市のホテルウェルビューかごしまで2020年度外国人雇用管理セミナーを開いた。各産業の事業者ら60人が出席。行政の施策などに理解を深めることにも、良好な受け入れ体制の構築に備えた。



外国人労働者が増加する現況を踏まえ、施策などを解説したセミナー＝鹿児島市のホテルウェルビューかごしま

従事者数が19年には739人となり大幅に増加したことを強調し、募集・採用や労働条件、安全衛生、各種保険に関する改正内容も明示した。実習生や19年4月から施行した留資格「特定技能」の概要等については、福岡出入国在留管理局の濱崎敦史入国審査官が登壇。新型コロナ禍を踏まえて帰国困難者に向けた滞在期間の更新をはじめ、実習生で移行検定

を受けできない者の一時的な留資格の変更に取

り組む現状を伝えた。同部の横溝紀彦部長は「この機会が事業主と行政側の相互理解を促す」と期待を込めた。

19年10月末現在、局管内1559事業所で働く外国人労働者は8387人(07年)以降では過去最高を更新。全体の7割近くが技能実習生として従事するほか、国籍別にみると50.6%を占めるベトナム(4240人)を筆頭に中国(1406人)、フィリピン(1325人)と続く。

セミナーはきょう3日、鹿屋市の県アジア・太平洋農村研修センターでも開催する予定だ。

仲野建設(中野成博社長)はこのほど、現場稼働率の向上が期待されている。サイレントパイラーは、杭の抜き打ちに用いる機器で、騒音や振動などの発生を抑制できることが特長。今回導入したF111は、硬質地盤でも圧入工法の優位性を損なわずに杭施工ができる硬質クリア工法を可能とする。また、システム施工により仮設工事を一掃し、環境負荷を大幅に低減することもできる。同社は、現場稼働率の向上を目的に同機種を導入。中野社長は「生産性や顧客満足度の向上、コスト削減にもつなげていきたい」と抱負を述べた。

## 最新サイレントパイラーを導入

仲野建設(中野成博社長)はこのほど、現場稼働率の向上が期待されている。サイレントパイラーは、杭の抜き打ちに用いる機器で、騒音や振動などの発生を抑制できることが特長。今回導入したF111は、硬質地盤でも圧入工法の優位性を損なわずに杭施工ができる硬質クリア工法を可能とする。

現場稼働率を向上

仲野建設(中野成博社長)はこのほど、現場稼働率の向上が期待されている。サイレントパイラーは、杭の抜き打ちに用いる機器で、騒音や振動などの発生を抑制できることが特長。今回導入したF111は、硬質地盤でも圧入工法の優位性を損なわずに杭施工ができる硬質クリア工法を可能とする。

現場稼働率を向上